



広報 — ご家族皆様でご覧ください —

ふたば



9

災害版No.28 9月号
2013



表紙写真：ハワイアンのリズムにのって（集まれ！ふたばっ子）

平成25年9月1日発行 編集・発行 / 双葉町いわき事務所 秘書広報課

大震災から 2年6カ月を迎えて

「皆さまの生活再建を目指して」

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故から早いもので、まもなく2年6カ月となります。改めて今回の大震災と厳しい避難生活の中で、無念にも亡くなられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

これまでの間、私たち避難住民には国や東京電力の取り組みの成果がまったく見えず、生活再建や町の復旧・復興への道筋が遅々として明確に示されていない状況の中で、町民の皆さまは依然として厳しい避難生活を全国各地で送り続けています。

役場いわき事務所を開設してまもなく3カ月となりますが、福島県や地元いわき市、双葉地方の各町村などと緊密な連携の下、関係各位の深いご理解をいただきながら、このいわき事務所を町民の皆さまの生活再建と町の復興を進める上での拠点と位置付け、今後町の復旧・復興に全力で取り組んでまいります。

去る6月25日には双葉町復興まちづくり計画（第一次）を策定しました。町への帰還見通しが明確

でない中、まず国の責任において、帰還見通しを示してもらうよう、復興庁などの関係省庁に強く要求しています。今後国が示す施策方針によっては、計画の見直しを柔軟に行う必要があると考えています。そして、町民の代表者・有識者で構成する「双葉町復興推進委員会」を新たに設置し、計画に記載された町民の生活再建やコミュニティの維持・発展、津波被災地域の復興など各種施策を具体化していきます。また、復興公営住宅の整備については、県・受入自治体との協議を重ねていきます。本年秋には住民意向調査を実施し、より詳細に町民の皆さまのご希望をお伺いする予定です。

埼玉県加須市にある旧騎西高校避難所については、ここに入所されている方に、より健康で良好な環境で生活していただくため、これまで2回の意見交換会と借上げ住宅等の情報提供に関する説明会などを開催しました。入所者の意向調査を踏まえた上で、新たな借上げ住宅等への入居手続きを関係機関連携の下、進めているところです。

双葉町の幼稚園、小中学校については、来年4月の再開を目指し、先月保護者へのアンケート調査を

行いました。双葉町の復興を担う子供たちを自らの町の学校で学んでいただくことは、非常に重要なことですので、今後さらに保護者等の意向を具体的に確認し、学校再開を実現させる考えです。

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業は、燃料取り出しや地下の汚染水問題の対策など大変厳しい状況にあります。国の責任において廃炉作業を進めることを強く要求していきます。町民の皆さまの当面の生活再建に関わる損害賠償や復興公営住宅などの重要課題に取り組んでまいりますので、町民の皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

双葉町長 伊澤 史朗



双葉町の復旧・復興に向けて国関係省庁などに要望活動を行いました

去る7月23日、24日の2日間、福島第一原子力発電所の事故による避難生活が長期化している中、双葉町の復旧・復興と町民の皆さまの生活再建に関わる重要課題の対応を国に求めるため、伊澤史朗町長は国の関係省庁に対する要望活動を行いました。要望活動では、根本匠復興大臣、下村博文文部科学大臣、田村憲久厚生労働大臣と直接面会したほか、各省庁の副大臣、大臣政務官などの幹部、さらには福島県選出の国会議員に対して、町が置かれている困難な現状と課題の解決を訴えました。

このうち環境省では、墓地の早期除染と保全の実施についての要望を行ったところ、井上信治環境副大臣から「実施に向けて早急に取り組んでいく」との考えが示されました。

今後は、今回の要望に対する国の対応をしっかりと見極めた上で、国関係省庁などに対する要望を継続して行っていきます。

主な要望事項は、次のとおりです。

- ・双葉町への帰還見通しの明示について
- ・復興公営住宅と町外コミュニティ（町外拠点）の早期整備について
- ・賠償指針・基準の見直しについて
- ・消滅時効の撤廃に係る法的措置について
- ・学校教育の復旧・復興とコミュニティの維持について
- ・町商工事業者の事業再開に向けた国の支援策の拡充について
- ・医療費等の免除措置の延長について
- ・借上住宅の受付期間及び契約期間の延長について
- ・高速道路無料化の延長・継続について
- ・健康管理体制の構築並びに健康被害防止対策の法制化について
- ・国直轄モデル除染の実施箇所の追加と除染数値目標の設定について

義援金の配分状況をお知らせします

(平成25年6月28日現在)

○国・県義援金

歳入： 4,182,632,192円
 歳出： 3,715,575,000円 (配分済)

○町義援金

歳入： 510,944,870円
 歳出： 477,925,000円 (配分済)

<義援金の種類>

国：日本赤十字社、中央共同募金会、日本放送協会、NHK厚生文化事業団に寄せられた義援金
 県：福島県に寄せられた義援金
 町：双葉町に寄せられた義援金

東日本大震災の義援金につきまして、国内外の多くの皆さまから温かいご支援をいただきました。双葉町では、お寄せいただいた義援金を、次のとおり配分しております。

国・県義援金

(単位：円)

	配分単位	配分先	国	県	配分時期
第1次配分	1世帯当たり	世帯代表	350,000	50,000	平成23年4月下旬～
第2次配分	1人当たり	世帯代表	212,000	38,000	平成23年8月上旬～
第2次追加配分	1人当たり	世帯代表	52,000		平成23年10月下旬～
第2次追加配分2回目	1人当たり	世帯代表	23,000		平成24年4月上旬～
第2次追加配分3回目	1人当たり	世帯代表	15,000		平成24年9月下旬～
死亡義援金	1人当たり	遺族代表	350,000		平成23年7月下旬～
行方不明義援金	1人当たり	遺族代表	350,000		平成23年7月下旬～
震災遺児(県)	1人当たり	遺族代表		500,000	平成23年9月上旬～

町義援金

(単位：円)

	配分単位	配分先	町	配分時期
第1次配分	1人当たり	世帯代表	40,000	平成23年7月下旬～
第2次配分	1人当たり	世帯代表	15,000	平成23年12月下旬～
第3次配分	1人当たり	世帯代表	10,000	平成24年9月下旬～

義援金配分算定方法

- 国・県第1次配分は世帯数に応じて配分
- 第2次配分以降一人当たりで算定して配分

新生児に対する配分

- 平成23年3月11日から12月31日までの間に生まれた新生児…国・県義援金及び町義援金については第2次配分以降から配分しています。
- 平成24年1月1日から3月9日までの間に生まれた新生児…第2次追加配分2回目以降から配分しています。
- 平成24年3月10日から8月20日までの間に生まれた新生児…第2次追加配分3回目以降から配分しています。

義援金配分の流れ

- 国(日本赤十字社、中央共同募金会、日本放送協会、NHK厚生文化事業団に寄せられた義援金)及び福島県に寄せられた義援金は、福島県配分委員会により基準等を決定し、双葉町に配分されます。また個人・団体等から双葉町に寄せられた義援金は東日本大震災義援金双葉町配分委員会により配分基準を決定し、国・県義援金と同様に町民の皆さまへ配分しています。

国・県義援金追加配分4回目 双葉町義援金第4次配分のお知らせ

東日本大震災義援金双葉町配分委員会において、双葉町に対して県内外から寄せられた義援金を被災された方々に、次のとおり配分することに決定しました。

- (1)配分額…国・県 一人当たり45,000円
町 一人当たり4,000円
- (2)配分対象者…①国・県義援金第二次配分対象者
②新生児義援金配分対象者
(H24. 8. 21～H25. 7. 29出生児)
- (3)配分方法…国・県義援金第1次配分及び新生児義援金配分申請時に届け出た世帯代表口座へ振り込み。(先に口座変更届け出をした方は変更後の口座)
- (4)配分時期…8月末から順次振込開始

【問い合わせ先】健康福祉課 福祉介護係
 ☎ 0246-84-5205

双葉町立小・中学校

集まれ！ ふたばっ子



◇1年ぶりの再会

児童生徒の様々なふれあいの活動を通して心の交流を図り、その中で双葉町の子どもとしての意識や自覚を持たせ、絆の維持に努めることを目的として、県内外の避難先から双葉北小学校児童62人、双葉南小学校児童75人、双葉中学校生徒64人、保護者の方などを含め合計409人が参加し、スパリゾートハワイアンズにおいて1年ぶりの再会を喜び、友情を温めました。

また、異動により双葉町の小・中学校を離れた先生方やコープみらいからボランティアとして8人の方々にもご協力をいただきました。

この事業は、県や町の補助金、日本ユニセフ協会などから寄せられた支援金を活用して行われました。

初日の受付会場では、久しぶりの再会に手を取り合い、抱き合って喜ぶ姿が見られました。

◇全体セレモニー

受付終了後には全体セレモニーが行われました。

初めに東日本大震災や避難生活により亡くなられた方々のご冥福を祈り全員で黙とうを捧げました。

半谷淳教育長が「二日間、友達と語り合い、色々な体験活動を通して楽しい夏休みの思い出を作ってほしい。普段できないことを経験してマナーを守って過ごしてほしい。来年の4月1日を目標にし

て双葉町の学校を再開したい」と主催者を代表してあいさつしました。

続いて、伊澤史朗町長が「皆さんがこのような交流の場を持つことは将来の双葉町のためにも大きな意義があります。この二日間多くの友達と元気に楽しく過ごしてほしい。双葉町としても町民の皆さまが双葉町をいつまでも愛し続け、生きがいのあるまちづくりと一刻も早い復興に取り組んでいきたい」とあいさつ。佐々木清一議会議長がお祝いのことばを述べられました。

児童生徒を代表して双葉南小学校6年の勝山絢介さん、双葉北小学校6年の浪江侑加さん、双葉中学校3年佐藤幸奈さんがこれまでの思いや夢などを一人ずつ発表しました。

また、日野俊隆双葉南小学校長、松本浩一双葉北小学校長、荒木幸子双葉中学校長がそれぞれの学校の職員紹介を行いました。

◇全体交流

全体セレモニーが終わると、スパリゾートハワイアンズダンスングチーム「フラガール」のリーダーモアナ梨江さん他、2人のフラガールの指導により、全員でフラダンスに挑戦しました。「月の夜」の音楽に合わせてステップや手の動かし方などを教えていただきながら練習をしました。初めは緊張してぎこちない動きでしたが、次第に笑顔がこぼれ、楽しそうにフラダンスを踊る姿が見られ、会場は温かい雰囲気になりました。



みんなでフラダンス



▲バイキングによる夕食

◇サプライズゲストの登場

夕食はバイキング形式で行われ、順番に並んでそれぞれ皿に食事を取り分け、友達と一緒にテーブルを囲んでいたいただきました。

食事が済んだ頃、突然、照明が暗くなり、後ろの扉からテレビなどで活躍しているお笑い芸人のイモトアヤコ、バービー、ニツチエ、ゴージャスなどが登場し、会場は驚きと歓声に包まれました。

ステージでお笑い芸人によるライブが行われ、子どもも大人もまじかに見るお笑い芸人におおいに笑い、拍手を送り、写真を撮ったり握手を求めたりして楽しい時間を過ごしました。



△お笑いライブ



△お笑い芸人の登場

作文発表◆◆ステージの上でそれぞれの思いを発表しました

楽しみにしていた 友達との再会

双葉南小学校 6年
(埼玉県加須市騎西小学校)

勝山 絢介



昨年は、騎西小学校の林間学校があり、双葉の集いに参加できなかったのですが、今年は参加できてとてもうれしです。

震災直後は、避難場所が次々に変わり、食べるものもあまりなく、いつもおなががついていたのを覚えています。

そんな生活もいつかは終わってみんなと一緒にまた南小学校で会えると思っていました。だから、またすぐいつもの通り学校が終わったら児童館に行って、夕方お母さんが迎えに来るまで宿題をやったり友達と虫取りをしたりグラウンドで遊んだり、図書館で好きな本を読んだりできると思っていました。

でも今は、原発事故の放射能汚染

で双葉町には帰れないことはわかります。

だからこの双葉の集いはみんなに会えるのでとても楽しみにしています。

ぼくは、騎西小学校でたくさん友達ができ、毎日楽しく学校に通っています。

スポーツも加須ジュニアソフトテニス部に入団して上手になるように一生懸命練習しています。

久しぶりに会えた友達とも転校した学校の話、そして震災前の南小学校でのなつかしい話をして、この二日間、みんなとたくさん思い出を作りたいと思います。

最後に、離れ離れになってしまった友達と再会できる機会を作ったとき、本当にありがとうございます。



今 私が考えていること

双葉北小学校 6年
(いわき市立菊田小学校)

浪江 侑加



震災が起こった時、私は、双葉北小学校の3年生でした。普通どおりに登校し、午後の授業が終わってみんな帰りの会をしている時、大きな地震が発生して生まれて初めての怖い思いをしました。また、あちらこちら知らない所でお世話になり、家族に守られて6年生になりました。

これからは、みんなで協力して一日も早く双葉町に帰れるように、私にできることは何かを考えるべきだと思います。何よりも健康に気をつけ今がんばっている大人の皆さんの手助けをしたいと思います。ゴミ拾い、節電など今できる事はたくさんあると思います。

そして将来、看護師になり、みんなの役に立ちたいと思います。

私の夢

双葉中学校 3年
(埼玉県加須市立騎西中学校)

佐藤 幸奈



震災から2年半が経ちました。私にとってのはあつという間の2年半でした。以前から比較すれば少なくなつたとはいえ、いまだに被災地のニュースを見たり聞いたりします。



私は今、埼玉県加須市にいます。学校は騎西中学校に通っています。震災前まで一緒に暮らしていた祖母とは離れて生活しています。震災を経て、改めて家族の大切さを実感しました。友達ともバラバラになってしまったことで、友達の大切さも感じました。

私には将来の夢があります。それは保育士になることです。私の目指す保育士は「どんな時でも笑顔で明るく、人の気持ちを考えることができる優しい保育士」です。また、保育士になったら、子どもたちに「人の気持ちを考えることができる優しい心」を育てることができるようになりたいです。この夢を叶えるため、高校進学も保育科があるところと決めています。最後まで諦めずに頑張れば結果はついてきます。結果がでなかったとしても自分で決めた夢なのだから、どんなに回り道をしようとも保育士になる夢を叶えるため全力で取り組みたいです。

3月11日の東日本大震災の事は忘れられませんし、忘れてはいけなと思います。これからもいつ何が起こるかは誰もわかりません。もしかしら、明日が来ないかもしれない。だからこそ、辛いことがあっても今、生きていられることや私たちのために支援・応援してくださって

いる方々や友達、家族に感謝して一日一日を大切に過ごしていきたいです。

私は、昨年に引き続き、今年もこの集いに参加することができて、とてもうれしいです。離れ離れになった友達や先生方に会うことができました。今日これからと明日までのイベントで皆さんからたくさんの方々に元気をもらうことができると思っています。この集いを開いてくださった方々に本当に感謝しています。

私は今年受験生です。不安もたくさんありますが、将来の夢を叶えるため、この集いで得た元気を力にして日々努力していきたいと思っています。今日は本当にありがとうございます。



◆体験活動

二日目はオリエンテーションの後、水着に着替え、お揃いの緑色の水泳帽子をかぶってウォーターパークやスプリングパークなどで水遊びを楽しみました。また、昔遊び体験をしたり友達とおしゃべりを楽しんだりして過ごしました。

解散式では、楽しかったことを思い出しながら二日間の出来事を振り返りました。

半谷教育長から「双葉町の子どもであることを忘れずに、避難先でがんばってほしい。事故等に遭わないように気をつけて残りの夏休みを有意義に過ごしてください」とあいさつがあり、同級生や先生方との再会の思い胸に刻み、別れを惜みながら今生活している場所へと出発しました。



学校ごとに記念撮影



双葉南小学校
1、2、3年生



双葉南小学校
4、5、6年生

双葉中学校
1、2年生





再会の記念に

双葉北小学校
1、2、3年生



双葉北小学校
4、5、6年生



双葉中学校
3年生





夢・希望・未来

双葉町青春の集い...

◇震災後初めての再会

8月10日、郡山市内のホテルにおいて、将来の双葉町を担う若者の再会を図るとともに、避難している各地の情報交換し合いながら、今後の双葉町について自由に意見を出し合い、将来の双葉町の復興の大きな力になる高校生等の絆を強めることを目的として「双葉町青春の集い：未来・夢・希望」が開催されました。震災当時双葉中学校の1年生から3年生だった生徒60人が避難先から2年5カ月ぶりに集まりました。

この集いは双葉町青少年育成町民会議と双葉町教育委員会の主催で行われ、国連とも協働しているNPO法人アドラジャパンや日本フアシリテイーション協会、福島復興支援団体リンクウイズふくしまの協力により開催されました。

開会に先立ち、東日本大震災や震災後の避難により亡くなられた方々に出席者全員で黙とうを捧げました。

主催者を代表して、伊澤史朗青少年育成町民会議会長が「将来の双葉町を担う皆さんが集うことは、双葉町民としての絆を深めるうえで、意義深いものがある。皆さんのような若者が将来の双葉町について、自由に意見を語り合うことは、双葉町の復興に繋がり、大きな期待をしている」とあいさつしました。

続いて、佐々木清一双葉町議会議長が「15歳から18歳までの若者が震災後初めて再会する機会が実現され大変うれしく、関係者の皆さんに御礼を申し上げます。将来の双葉町の姿を皆さんの力を借りて作り上

げていかなければならない。一人ひとりの夢の実現に向かってがんばっていただきたい」と祝辞を述べられました。

◇意見交換

開会式が終わると会場を移して、6人ずつ10のグループに分かれ、グループごとに自己紹介や近況報告を行いました。次第に緊張もほぐれた頃、将来の町のことについて話し合い、テーブルに置かれている模造紙に考えを書き出しながらディスカッションを行い、出された意見を代表者が発表しました。

主な意見として「原子力災害について、経験した人がしていない人に伝える」「被ばくをしたらどうなるのか知るべき」「双葉町を忘れない」「自分の故郷(帰る所)があるのがどんなに幸せなことか」「家族を大切に」「双葉町の友達を大切に」「自衛隊に入って双葉町の復興に努めたい」「感謝の気持ちを忘れずに、今の出会いを大切に」などの意見が出されました。

◇振り返り

昼食をはさんで、グループ替えを行い、スクリーンに映し出された映像を見ながら午前中の活動について振り返りました。

また、震災前に双葉中学校で撮られた写真も映し出され、中学生時代の自分の顔や友達の様子を見て、大喜びして笑ったり参加できなかったりできなかった友達のことを思いだしたりしながら今の気持ちを話し合いました。



◇みんなの樹をつくろう

大きな模造紙に貼られた双葉町の木「せんだん」と町の花の「さくら」の木の幹や枝が会場の正面に飾られ、子どもたちが、葉や花に将来の夢や20歳になった自分へのメッセージを書き、幹や枝に貼って樹を完成させました。メッセージの中には「20歳になったらお父さんとお酒が飲みたい」「人の役にたてる仕事に就きたい」「声優になりたい」等それぞれの希望や願いごとが書かれました。

完成した樹の前で全員が笑顔で記念写真を撮り、集いが閉じられました。

ふるさとへの熱い思いを 和太鼓の音に乗せて

— 標葉せんだん太鼓保存会 —

白山国際太鼓エクスタジア

2013に出演

全国の和太鼓奏者が競演する「白山国際太鼓エクスタジア」は、全国各地の太鼓芸能を満喫できるイベントとして毎年多くのファンが訪れます。大地を震わす大太鼓の迫力を肌で感じ、華麗なる舞台芸術に酔いしれる夏の一夜を演出します。

今回は20回記念スペシャル公演として7月14日、石川県白山市松任文化会館大ホールで開催されました。

昼の部の組太鼓と民俗芸能の競演「大和の響き」プログラムの1番に標葉せんだん太鼓保存会が演奏しました。メンバー15人がそれぞれの避難先から石川県白山市に集結し、双葉町の新春の情景を描いた「稲妻」、相馬野馬追をイメージした「夏」をメンバーが心を一つにして迫力ある演奏を繰り広げ、会場からは大きな拍手が送られました。

双葉の音を絶やさない

標葉せんだん太鼓保存会の横山久勝会長は「和太鼓奏者として白山国際太鼓エクスタジアで演奏できたことは、最高に光栄なこと。感激で胸がいっぱいだった。双葉町から避難を余儀なくされ、メンバーが散り散りになり、練習をすることが難しい状況ではあるが、体で覚えたりリズムは忘れない。今回のエクスタジアで演奏できたことを足掛かりとして、これからも標葉せんだん太鼓の灯をともし続け、双葉町を代表とする

音を絶やさずに、できる限り演奏活動を続けていきたい。そして伝統太鼓として後継者に傳承されていくことを願っている」と話されていました。

7月20日に行われた「夢ふたば人 夏まつり」、21日の「いわき21世紀の森 復興祭」27日に矢吹町で行われた「真夏の夜の鼓動」でもメンバーが魂を込めて打ち鳴らす標葉せんだん太鼓の勇壮な太鼓の音が夏の夜空に鳴り響きました。



白山国際太鼓エクスタジア2013

7月14日(日) 白山市松任文化会館 大ホール

—— 第20回記念スペシャル公演 ——

夜の部 7つの橋員2013

開演18時 料金は200円

全席指定	4,300円
A席前売	4,000円
当日	4,300円
B席前売	3,800円
当日	4,300円
中学生以下	1,000円
前売・当日	1,000円
小学生以下	3,000円
前売	3,000円

昼の部 組太鼓と民俗芸能の競演「大和の響き」

開演13時 料金は150円

全席指定	3,800円
A席前売	4,300円
当日	4,300円
B席前売	3,300円
当日	3,300円

夜部の部 七つの橋員2013

林英哲

十英哲風雲の会

和太鼓懐 瑞宝太鼓

新潟県代太鼓神楽会

標葉せんだん太鼓保存会

石川県立北上郡南高専

岩手県岩手県立一ノ宮 主屋 十工型

参加夜部員(五十名) 主屋 十工型

▶参加メンバー(敬称略)

前列右からエマ・ギブソン、栗田和子、佐藤歩美、松本節子、今泉千鶴子、佐藤さくら、佐藤あきな、後列右から佐藤光男、佐藤康晴、板倉良直、今泉春雄、横山久勝、山道好幸、西山竜生、野村好彦

7月27日から29日、南相馬市雲雀が原祭場地において国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」が開催されました。一千有余年を誇る祭りは一昨年、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の影響で自粛され、規模を縮小して行われましたが、昨年は通常規模で開催され、甲冑競馬や神旗争奪戦も復活しました。

今年は鎧兜で身を固めた五郷（宇多、北、中ノ、小高、標葉）の騎馬武者429騎が出陣し、雲雀が原祭場地には「人馬一体」の勇姿が集い、天下無比の戦国絵巻が再現されました。

双葉町では、町ホームページやフォトフレームにより出場者を募り、今年も総勢6騎の騎馬武者が標葉郷から出陣し、各騎馬武者が赫々たる武勲をあげました。

避難生活にも関わらず、相馬野馬追祭を通して勇猛果敢な武士道精神を感じさせられました。出陣された皆さんは、復興に向けて確かな一歩を踏みしめながら、3日間の日程を終えました。

相馬野馬追祭



＜本年度出場者＞ 敬称略
 谷津田光治(軍者)、中川健治(軍者)、山本秀次(組頭)、中川 準(中頭)、中川巧一(御使番)、山本春香(御使番)

★平七夕まつり

いわき市を代表する夏祭りとしてまた、平の夏の風物詩として親しまれている平七夕まつりが8月6日から8日まで、いわき駅前において開催されました。

目抜き通りには色とりどりの七夕飾りが飾られ、双葉郡の住民の方々が復興と感謝の願いを込めた七夕飾りも浜風に揺れる中、浴衣姿の大勢の見物客で賑わいました。また、通りのところどころには笹竹に願いごとを書いた短冊が飾られました。

平和通りには双葉町のブースが設けられ、いわき・まごころ双葉会（岡田常雄会長）の会員が網で焼いた焼きたてのとうもろこしやかき氷の販売を行いました。

会員の皆さんは道行く人に笑顔で声をかけていました。



総合健診・がん検診のおしらせ



平成25年度の町の総合健診・がん検診を下記の日程で行います。
 避難生活で体調の不安を感じている方も多いと思います。
 健診によって、自分の健康状態を把握し、病気の早期発見・治療につなげることや、不安が軽減されることが目的です。年に1度はかならず受けましょう。

【 福島県内に避難している方 】 意向調査をもとに、実施受診票や容器は9月下旬以降に発送予定です。

月 日	地区	会場/受付時間	特定健診※1	骨粗鬆症 <small>しょう</small>	肝 炎	がん検診			備 考	
						肺	胃	前立腺		
総合健診	11月11日(月)	福島	福島市保健福祉センター 8:30-10:30	○	○	○	○	○	○	
	11月12日(火)	いわき	いわき市常磐公民館 9:00-11:00	○	○	○	○	○	○	
	11月13日(水)	いわき	いわき市常磐公民館 9:00-11:00	○	○	○	○	○	○	
	11月14日(木)	白河	白河市中央体育館 8:30-10:30※2	○	○	○	○	○	○	
	11月15日(金)	郡山	福島県農業総合センター 9:30-11:00	○	○	○	○	○	○	
	11月7日(木)	会津	河東保健センター ※3大熊町と合同で開催	○	×	○	○	○	○	会津地方の方
	10月5日(土)	南相馬	万葉ふれあいセンター ※3浪江町と合同で開催	○	×	○	○	○	○	相馬市、南相馬市、新地町の方
乳がん	12月13日(金)	福島	福島市北幹線第二仮設 (9:00-10:00、13:00-14:00)							
	12月16日(月)	白河	白河市郭内第二仮設 (9:00-10:00、13:00-14:00)							
	12月17日(火)	郡山	郡山市日和田仮設 (9:00-10:00、13:00-14:00)							
	12月20日(金)	いわき	いわき市小名浜公民館 (9:00-10:00、13:00-14:00)							
子宮がん	10-12月予定	医療機関での個別検診								

- ※1 心電図、眼底検査も受けられます。健康診査、後期高齢者健康診査を含みます。
- ※2 他市町村と合同で開催予定
- ※3 会津、南相馬会場では、骨粗鬆症しょう検診はありません。

【 福島県外に避難している方 】

総合健診、がん検診ともに検診実施機関に委託して行います。7月下旬に、水色の封筒で通知しました。検診は、お近くの医療機関でお受けいただけます。

検診によって、対象者が異なりますので、ご確認ください。



対象者となる方	対象年齢
骨粗鬆症 <small>しょう</small>	40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳及び70歳になる女性
肝炎ウイルス	40歳になる住民で職場等で未受診の方
肺(X線)	40歳以上の住民
胃(X線)	30歳以上の住民
大腸	〃
乳(視触+マンモ)	40歳以上の女性(住民)で職場等で受診機会のない方
前立腺(P S A)	50歳以上の男性
子宮(頸部)	20歳以上の女性で(住民)で職場等で受診機会のない方

避難先の変更等により、意向調査(福島県内)や健診の案内(福島県外)を受け取っていない方は、お手数ですが、ご連絡ください。

健康福祉課 健康づくり係 ☎ 0246-84-5205

浜野行政区からのお知らせ

浜野行政区長 菅本 洋

総会並びに交流会を開催しますので、ご参加ください。

○日 時 10月5日(土)～6日(日) 1泊2日

総 会…午後3時～

交流会…引き続き行います。

※関の湯へは、午前10時から入館できます。

○場 所 太平洋健康センター勿来温泉 関の湯

いわき市勿来関田須賀1-4

☎ 0246-65-1126

○会 費	大 人 1 人	10,000円
	子ども 1 人 (大人と同じ夕食)	7,000円
	子ども 1 人 (お子様用夕食)	4,500円
	幼 児 1 人 (未就学児)	3,500円

※会費は当日お願いいたします。(宿泊の料金です)

○申込締切 9月10日(火)

※準備の都合上、早目の連絡をお願いいたします。

【連絡先】 中野地区…志賀 一郎

☎ 090-3640-0169

中浜地区…菅本 洋

☎ 080-1655-8858

※詳しい内容を知りたい方は、菅本洋行政区長までご連絡ください。

専業主婦(夫)の年金が改正されました。

平成25年7月1日から専業主婦の年金が改正され、会社員の夫が退職した際などに年金の切り替え手続きが遅れたり漏れているために、保険料が未納となっている主婦が、手続きをすれば年金を受け取れるようになったり、年金額を増やせるようになる場合があります。

○主婦年金からの切り替えの手続きが2年以上遅れたことがある方は、今すぐ手続きを！

原則として20歳から60歳までのすべての人が「年金」に加入することになっていますが、サラリーマンの夫(2号被保険者)に扶養されている妻(専業主婦:3号被保険者)は、保険料を納める必要はありません。

ただし、夫が退職した場合や妻自身の年収が増えたときなどは、手続(3号被保険者から1号被保険者への変更手続)をして、保険料を納めなくてはなりません。

この手続が2年以上遅れたことがある方は、2年以上前の保険料を納付することができないため、保険料の「未納期間」が発生します。

このたび、専業主婦の年金が改正され、このような方が手続きをすれば、「未納期間」を「受給資格期間」に算入することができるようになりました。
※妻がサラリーマン、夫が専業主夫の場合も同様です。

○手続きをすれば、無年金や年金の減額を防ぐことができます。

※老齢年金だけでなく、万一の時の障害年金などの受給権の確保にもつながります。

○保険料納付で年金額アップ！

手続きすれば、本来はさかのぼって払うことができなかった期間の保険料を納付することができます(最大10年分)。保険料を納めれば、年金額が増えます。

※平成27年4月から保険料の納付ができるようになります。手続きをした方に、平成27年4月に向けて保険料納付のご案内を郵送する予定です。

※詳しくは、「国民年金保険料専用ダイヤル」またはお近くの年金事務所へお問い合わせください。

国民年金保険料専用ダイヤル

☎ 0570-011-050

050または070から始まる電話でおかけになる場合は☎ 03-6731-2015

<受付時間>

・月～金曜日 午前8:30～午後5:15

ただし、月曜日(月曜日が休日の場合は火曜日)は午後7:00まで延長

・第2土曜日 午前9:30～午後4:00

(祝日、12月29日～1月3日はご利用いただけません。)

※ナビダイヤルは、一般の固定電話からおかけになる場合は全国どこからでも、市内通話料金でご利用いただけます。



常会・懇親会

— 寺松地区 —

6月8日、9日、郡山市磐梯熱海温泉のホテルにおいて、一泊二日の日程で寺松地区の常会及び懇親会が開催され、43人がそれぞれ避難先から参加しました。東日本大震災、原子力災害から2年2カ月ぶりの再会となりました。

大塚憲さんの司会により、常会に先立ち、震災並びに震災後亡くなられた方々に対し、全員で黙とうを捧げご冥福を祈りました。

常会では、石田翼区長から「ようやく地区の皆さんが集まれる機会をつくることができました。皆さんの元気な姿を見て胸がいつぱいです。これからも寺松地区の絆を絶やすことなくコミュニティを維持していきたい」とあいさつがあり、引き続き、震災から現在までの報告が行われました。

温泉につかってゆつくり体を休めた後、懇親会に入りました。懇親会は松本汀副区長の乾杯の発声で始まり、食事やお酒を酌み交わしながら、それぞれの避難経路や現在の状況、ふるさと寺松地区の荒廃した様子や思い出話など時間の過ぎるのも忘れて夜遅くまで語り合いました。

次の日は別れを惜しみながらも、次回の再会を誓い合い、お互いの無事を祈り、また各避難先へと散り散りに各避難先へと戻っていきました。

双葉農業普及所からのお知らせ

双葉農業普及所は、毎月県内7カ所で、避難されている農家の皆さんの相談窓口を設置しております。

9月から新たに**双葉町役場いわき事務所**（いわき市東田町地内）で**相談窓口を開設**します。

窓口では、相談者の現在の状況を聞き取らせていただきながら、皆さんが必要な情報、（農産物・土壌モニタリング結果、原子力災害に対応した農業技術情報、資金・事業の紹介など）をわかりやすくご説明いたしますので、お気軽にお越しください。

9月の日程は右記のとおりです。

※町村問わずに最寄りの窓口にお越しください。

※右記以降の日程は随時お知らせいたします。

双葉農業普及所ブログ「ふたばの農業通信」に掲載しておりますので、ご利用ください。パソコン、携帯電話からご覧になれます。（携帯電話のポケット料金にはご注意ください）

※時間：午前10時～午後3時

9月5日(木)	郡山市南一丁目応急仮設住宅集会所 (富岡町仮設住宅)
9月6日(金)	双葉町役場いわき事務所
9月20日(金)	(いわき市東田町地内)
9月12日(木)	葛尾村役場三春出張所 (三春貝山多目的運動公園内)
9月13日(金)	榎葉町役場いわき出張所 (いわき明星大学 大学会館2階)
9月19日(木)	浪江町役場二本松事務所 (二本松市平石高田第二工業団地内)
9月26日(木)	郡山市富田町若宮前応急仮設住宅集会所 (富岡町仮設住宅)
9月27日(金)	大熊町役場会津若松出張所 産業建設課内

【問い合わせ先】双葉農業普及所

☎ 0246-24-6044
FAX 0246-24-6142

双葉町行政区長会が集会を開催

7月27日、28日、栃木県鬼怒川温泉において一泊二日の日程で行政区長会（竹原天会長）の集会が開催され、17行政区のうち15の行政区長が出席されました。

協議に先立ち、故永野康明下長塚行政区長をはじめ東日本大震災並びに震災以降の物故者に対して黙とうを捧げました。

また、伊澤史朗町長、佐々木清一



葉町議会議長より寄せられたメッセージが披露されました。

協議では、汚染水処理の問題と廃炉作業の進捗状況などを確認し、現状を避難中の町民に知らせるための福島第一原子力発電所の現状視察や中間貯蔵施設に関する現地調査を環境省に説明を求めること、各行政区のコミュニケーションの更なる充実を図ることなどが話し合われました。

にこにこサロン を開催します

平成25年 9月 開催予定日

平成25年度の福島県内における介護予防事業「にこにこサロン」は、下記のように仮設住宅集会所及び地域の市民会館・公民館等において開催予定です。

「健康チェック（血圧測定）」、「にこにこ体操（音楽に合わせた体操やストレッチ体操）」、「折り紙」、「脳トレゲーム」等を通して参加者の皆さんと楽しい時間を過ごします。町民同士の交流の場、情報交換の場、再会の場としてご利用ください。たくさんの方の参加をお待ちしています。

仮設住宅集会所	住所・電話	開催月日	時間
サポートセンター「ひだまり」	いわき市南台3丁目1-1 0246-38-7105（事務所）	9月3日（火）	13:30～15:30
白河仮設住宅第二集会所	白河市郭内151-29 080-6290-5954（廣田）	9月5日（木）	13:30～15:30
喜久田仮設住宅 集会所	郡山市喜久田町早稲原字上ノ端54-4 080-6290-5960（木村）	9月17日（火）	13:30～15:30
さくら仮設住宅 集会所	福島市さくら1丁目10-1 080-6290-5941（林）	9月17日（火）	13:30～15:30
市民会館・公民館等	住所・電話	開催月日	時間
福島市 多世代交流センター 「虹の和村」「うららか広場」	福島市在庭坂字南林60-2 024-573-9321	9月10日（火）	11:00～15:00
埼玉県 騎西コミュニティセンター 4階 401～403会議室	埼玉県加須市下崎404-1 0480-73-3361	9月26日（木）	13:30～15:30

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会 いきいきサポートセンター（介護予防事業所）
☎ 080-6033-1199（古室）



お弁当で健康に！

お弁当箱を使ったダイエット法をご存知ですか。

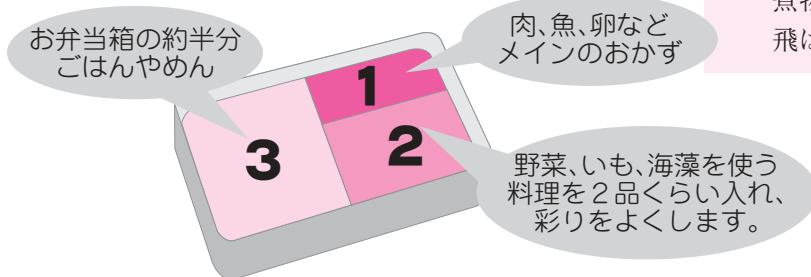
お弁当箱の中の主食（ごはん）・主菜（肉や魚、卵などのおかず）・副菜（野菜のおかず）の割合を3・1・2にするというものです。スーパーやコンビニで売っているお弁当は、主菜ばかりで、副菜がわずかなものが多いですし、自分で作っても主菜が副菜よりも多くなってしまいがちです。

お弁当箱の容量（ml）は、エネルギー（カロリー）とほぼ同じといわれています。下に年代別の必要量のめやす（昼食）を示しました。お弁当箱のパッケージや底面に容量（ml）が書いてありますので、自分に合ったお弁当箱を選びましょう。おかずの調理法や詰め方でエネルギーは変わります。おかずの調理法が重ならないようにすることや、動かないようになるべくきっちりと詰めることもポイントです。

どんなものをどれだけ食べればいいのかわからない方や市販のお弁当をよく買う方は、自分に合ったお弁当箱を用意して、詰めなおしてみるとよくわかります。この方法をしばらく続けると、お弁当箱を使わなくても自分にとっての適量の感覚が身につくそうです。いつも買っているお弁当に野菜が足りないなら、別にサラダやお浸しや煮物を追加し、バランスを整えるなど工夫ができます。

＜3・1・2弁当の作り方＞

まずお弁当箱の半分にご飯をつめます。残りのスペースを3つに分け、1つに肉、魚、卵などのおかず、2つに野菜を中心にしたおかずを入れます。



お弁当箱の大きさのめやす(ml)

	男性	女性
3～7歳	400～500	
8～11歳	600～700	
12～17歳	800～900	700
18～29歳	900	600～700
30～49歳		600
50～69歳	800	600
70歳以上	600	500

※お弁当の大きさ(ml)は、必要なエネルギー量(kcal)とほぼ同じと考えてください。
※体格や活動量によって必要量は変動します。

9月は食中毒が多く発生します。お弁当に入れるのに注意したい食品は下のとおりです。まだまだ気温が高いため、しっかり冷ましてから詰めたり、保管場所などに注意が必要です。また、保冷剤や保冷剤代わりに凍らせたゼリーや果物、自然解凍できる冷凍食品と一緒に入れるのもおすすめです。

殺菌、防腐効果のある調味料等を使ってお弁当を作りましょう。

お酢…ごはん：米2合に対してお酢大さじ1を加えて炊飯する。

すしめし：ご飯にすし酢をまぜる。

カレー粉…から揚げやあえもの、きんぴら等の仕上げにカレー粉をかける。

タンドリーチキン：カレー粉とヨーグルトに漬けこんだ鶏肉を焼く。

梅干し…ほうれんそうやピーマンのお浸しにほぐした梅干しを加える。

夏のお弁当で注意したい食品

＜いたみやすいもの＞

○味のついたごはん

炊き込みご飯やチャーハンなど

○かまぼこ、ちくわなどの練り製品

＜水分の多いもの＞

○生野菜、ゆでただけの野菜

プチトマトのへたは取る。

レタスを仕切りに使わない。

○煮物

煮物はなるべく味を濃いめにして、水分をしっかり飛ばす。



「3：1：2」で
体すっきり！





教育総務課生涯学習係 事業開催のお知らせ

【生活学級】 どなたでも参加できますので、皆様お誘い合わせのうえご参加下さい。

(健康講座)

日	時	学級名	会	場
9月5日(木)	午後1時30分	そうま・みなみそうま生活学級	南相馬市	南相馬市民文化会館ゆめ!はっと

(食育講座)

日	時	学級名	会	場
9月9日(月)	午前10時30分	いわき生活学級	いわき市	いわき市文化センター
9月27日(金)	午前10時30分	しらかわ生活学級	白河市	白河市立図書館

(郷土文化講座)

日	時	学級名	会	場
9月3日(火)	午前10時30分	つくば生活学級	つくば市	つくば連絡所
9月11日(水)	午後1時30分	こおりやま生活学級	郡山市	富田町若宮前応急仮設住宅
9月18日(水)	午後1時30分	かぞ生活学級	加須市	旧騎西高校

(防犯予防講座)

日	時	学級名	会	場
9月17日(火)	午前10時30分	あいづ生活学級	会津若松市	会津中央公民館
9月24日(火)	午前10時30分	ふくしま生活学級	福島市	福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ

【婦人学級】

日	時	学級名	会	場
9月3日(火)	午前10時	梅檀婦人学級	福島市	福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ
9月5日(木)	午前10時	しらゆり婦人学級	南相馬市	南相馬市民文化会館ゆめ!はっと
9月11日(水)	午前9時30分	桜婦人学級	いわき市	現地研修(いわき市内)
9月10日(火)	午前9時	すみれ婦人学級	いわき市南台	社会科見学(いわき市内)
9月2日(月)	午前8時	ひまわり婦人学級	白河市	白河駅周辺
9月1日(日) 8日(日) 21日(土)	午前9時	さくら生活学級	つくば市	筑波大学 アート&デザイン実習室
9月8日(日)	午前10時	ふたば婦人学級	会津若松市	会津若松第二中学校西仮設集会所
		はなみずき婦人学級	加須市	9月はお休みです。

第7回 市町村対抗 福島県軟式野球大会

日時 9月8日(日) 午前11時30分～
(第3試合) 双葉町 対 大玉村
場所 福島県営あづま球場

第26回 双葉町総合美術展

日時 10月9日(水) 午後1時～午後5時
10月10日(木) 午前10時～午後3時
場所 郡山市民プラザ ビッグアイ
6階展示室

【問合せ先】 教育総務課 生涯学習係 ☎ 0246-84-5210



双葉の風だより

全国に避難されている皆さんから寄せられた
お便りやメールの一部をご紹介します

・人生は 寄せては返す 夏の海
・潮騒は 双葉の夏を 思い出す

遠藤シゲヨ(長塚一)

・故里へ 何時に帰れる 虹かかる
・写真顔 父そっくりの 花南瓜

森 正夫(新山)

・家借りて 畑を借りて 茄子植へる
・義姉逝きて 皆が黙して 夏木立

藤田 博司(下糸)

・迎え火も 送り火もなし 避難の地
・故里の 恋ものがたり 百日紅

袖原 秀康(三宮)

・転々と 共に避難の 毛布干す
・夏帽子 シルバーカーを 押して行く

関根 初巳(長塚二)

・中浜の 砂浜恋し 荒波に
揉まれ遊びし 幼き日々よ
・おだやかな 海風そよぐ 砂浜に
夢を語りし あの人はいま
・生きることは 愛すること しりつつも
時に冷たき 避難生活は
・稲づくりも 野菜づくりも リタイアし
日々デートレに 生き甲斐求めて

古室 仁(浜野)

避難生活が続く中、全国に避難されている町民の皆さまの声を「双葉の風だより」のコーナーで紹介するため、皆さまからのお便りを募集しています。
現在の生活の様子、避難先の地域のこと、町民の皆さまに伝えたいことなどなんでも結構ですので、皆さまの声をお寄せください。

【問い合わせ先】
秘書広報課 秘書広報係
☎ 0246-84-5202



仮設住宅への入居者募集(継続)

1.募集物件 (8月5日現在)

地区	間取り	募集戸数	住 所
福島市	2 K	12戸	飯坂町平野字内小原田8-1
	3 K	15戸	
	計	27戸	
福島市	2 K	4戸	福島市さくら1丁目10-2
	計	4戸	
郡山市	1 K	4戸	喜久田町早稲原字上ノ端54-4 (3Kはペットゾーンのみ)
	2 K	6戸	
	3 K	1戸	
	計	11戸	
郡山市	1 K	1戸	日和田町高倉字諏訪前82
	2 K	7戸	
	3 K	10戸	
	計	18戸	
白河市	1 K	2戸	郭内151
	2 K	23戸	
	3 K	19戸	
	計	44戸	

※3Kは3名以上で受け付けします。
※被災証明または罹災証明の写しを付けてお申込み
ください。窓口受付時間：午前9時から午後5時
まで

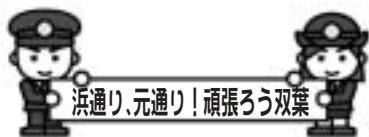
【問い合わせ先】郡山支所 ☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5124

ペットを飼っている方へのお知らせ

- ・犬も猫も大切な家族の一員です。愛情と責任を持って飼いましょう。
- ・不幸な子犬や子猫を増やさないために、不妊・去勢手術を受けさせましょう。
- ・猫の「室内飼い」を勧めています。交通事故や病気から守りましょう。
- ・犬の登録と狂犬病予防注射を受けましょう。
- ・犬の放し飼いはやめましょう。人に噛みついたり交通事故に遭うかもしれません。
- ・きちんとしつけをしましょう。トラブルを防ぐだけでなく、災害時などに同行避難する場合にも重要です。
- ・保健福祉事務所では、保護・収容された犬や猫を譲渡しています。責任を持って飼ってくださる方は、保健福祉事務所にご相談ください。

【問い合わせ先】
相双保健福祉事務所 食品衛生チーム
☎ 0244-26-1351





浪江消防署からのお知らせ

消すまでは 心の警報 ONのまま

(平成25年度全国統一防火標語)



仮設住宅ふれあい巡回訪問を実施します！

今回で3回目となる仮設住宅の全戸巡回訪問を9月2日より実施いたします。

訪問を通して火災予防のお話を聞かせていただき、加えてお体の状態、ご意見などがありましたら、話を聞かせてください。

【問い合わせ先】

浪江消防署 富岡消防署川内出張所
☎ 0240-38-2119

(浪江消防署は川内出張所で業務をしています)

全国一斉！法務局休日相談所 開設のお知らせ

法務局では、行政サービス向上の一環として、法務局で取り扱う登記、戸籍、国籍、供託、人権擁護など各業務について、気軽にご相談いただけるよう「全国一斉！法務局休日相談所」を開設します。

相談は無料で秘密は守られます。

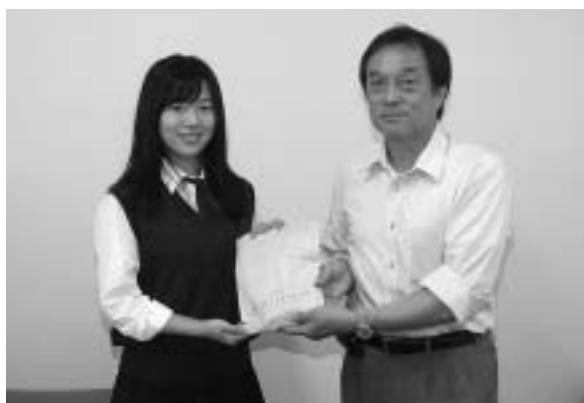
- ・日時…10月6日(日) 午前10時～午後3時
- ・場所…福島地区 福島駅前「中合デパート」
相馬地区 「イオンスーパーセンター
南相馬店」
郡山地区 郡山駅前「ビックアイ」7階
白河地区 「イオン白河西郷店」
会津地区 「生涯学習総合センター
(會津稽古堂)」
いわき地区 「イオンいわき店」2階
- ・内容…不動産・商業登記の手続き、土地の境界問題、遺産相続、地代・家賃等の供託、戸籍・国籍の問題、夫婦・家庭内の問題、成年後見、公証に関すること、お年寄り・子どもの虐待、いじめ・体罰問題など、
- ・担当者…法務局職員、司法書士、土地家屋調査士、公証人、人権擁護委員

【問い合わせ先】福島地方法務局 総務課
☎ 024-534-1941

温かいご支援を
ありがとうございます



▲8月1日、浄土真宗本願寺派、たすけあい運動募金(写真右 浄土真宗本願寺派宗務所部長葛谷英淳様)より義援金をいただきました。



▲7月26日、横浜南ロータリークラブ様(写真上)、関東学院中学校 高等学校様(写真下)より義援金をいただきました。



FUTABA

第5号

ふるさと
絆きずな
通信

双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もなお全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さんが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんの声をお聴きしながら「ふるさと絆通信」として連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まることを期待いたします。



はらなか よしひろ
原中 良博 さん

(長塚二)



●避難先●
東京都立川市



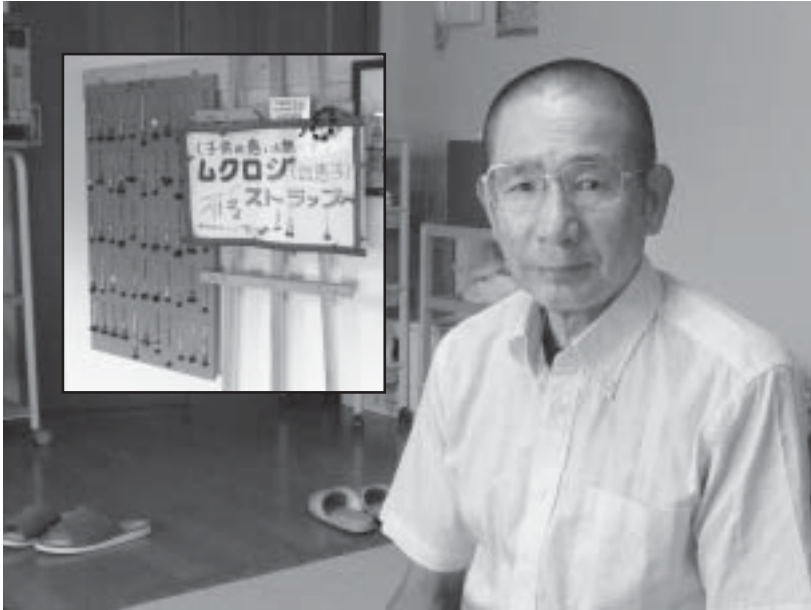
着の身、着のままの姿で町を離れたため、避難先で購入した衣類「カットソー」を東京電力に賠償請求したところ、先方が、その「カットソーが衣類」という認識を持っていなかったため、当初、賠償の対象外とされてしまいました。この時代、多くの人々が普通に着用する衣類さえ知らない加害者（原因者）側に、平穏な生活を奪われた私たちの苦しみが理解できるのでしょうか。そうした理不尽な思いをしながら、賠償請求手続きを投げ出してしまいたい気持ちになることもよくありますが、生活再建のためと割り切って手続き」を続けています。

地震発生後、私は行政区長のため、早速、地区集会場を避難所として解放したり、地区内に住む皆さんの安否確認をして、広域避難所となった双葉北小学校で、校内にあった米でご飯を炊いたり、校庭で駐車誘導などを行っていました。翌朝からの避難では、家族6人と犬を連れて車2台に分乗し、渋滞を避け、南相馬市を経由し川俣町の避難所に向かいました。その後町では、さいたまスーパーアリーナ、旧騎西高校に移りましたが、妻が病気がちで、そうした動きに合流することができなかつたため、関東地方の親類宅を経て、東京都立川市にある都営住宅に入居しました。この住宅には、私たち以外にも震災の被災者が入居しています。ここは、三宅島噴火災害被災者用避難住宅でした。同島民の帰還後、使われていなかった

ため、すぐに生活を始めるには多少難がある状態でしたが、自治会をはじめ地域の皆さんの手助けを頂きながら生活を続けています。また、避難直後より、避難所や仮設住宅と違ってわが町に関する情報が入ってこないなど困った問題もあります。付き合のあつた方の訃報に触れても、葬儀に間に合わないなど、地域との絆からだんだんと遠くなっていくような感じさえ覚えます。

現在、震災前まで同居していた長女夫婦は、茨城県内の親類宅に身を寄せていましたが、仕事や孫の学校のためいわき市内で生活しています。妻は、故郷の近くで療養したいと強く希望したため、いわき市内（長女一家とは別）に移りました。妻の移動後、長女たちや友人が近くにいるとはいえ、妻を一人にしておくのは心配な面もありますが、東京にいたときより気持ちは楽なようです。

最近、中間貯蔵施設の建設計画について議論を呼んでいます。事故を起こした1〜4号機は当町ではなく大熊町に立地していること、当町をはじめとする福島県内ではなく、首都圏の電気を生産していたことなど、私たちはあくまで「被害者」であるという「問題の原点」を踏まえた対応を忘れてはならないと思います。この施設の受入反対や議論に応じないという態度はとりませんが、あくまで「中間」としての苦渋の決断に臨むという現実だけは、原因者や国には決して忘れてほしくありません。



ちよだ しんいち
千代田 信一
さん

(羽鳥)



●避難先●
千葉市中央区

地震発生の翌日に出された避難指示を受け、私たち一家は、妻の出身地、千葉県四街道市にやってきました。当初、妻の実家に世話になり、その後、同市が避難所として解放してくれた市民保養施設を経て、避難者用住宅として開放されたNTT社宅に移りました。

私は若い頃から養蜂をしていました。飼育していたミツバチは約30群、季節ごとに咲き誇る花々から、風味豊かな蜜を集めてきて、私たちの舌を楽しませてくれました。また、タラノメやコシアブラなどの山菜、猪茸（いわゆる「イノハナ」）やマツタケなど多種に及ぶキノコ類を採っては味わうのも大きな楽しみでした。会社を定年退職した後は、自然薯栽培を始めました。その他にも、ミツバチの天敵スズメバチの駆除や、ヤギを飼育して乳を搾りアイスクリームなどの加工品作りをしていました。

四街道での生活を始めた頃、何も手に付かない、まるで虫の抜け殻のような状態でしたが、自分が菱びていては家族も暗くなるだけ。そう思つてまず、日頃、地域の美化活動など、お世話になつていられる地域の皆さんの活動に加わらせてもらうことにしました。そのうちに、皆さんと打ち解けるようになり、ある時、交流している皆さんに養蜂など双葉での話をしたところ、当地で自然農法や環境保全活動を行っているNPO法人・四街道メダカの会が主催する活動グループ「ムクロジの会」の皆さんから、養蜂や自然薯栽培を教えてくださいと

頼まれ、長年の「趣味と実益」を発揮できるチャンスとなりました。一昨年7月には、神社の境内に営巣したミツバチの駆除を頼まれましたが、単なる駆除でなく、巣を解体して、蜜を取り出し、ミツバチを巣箱に移し飼育することにしました。大仕事でしたが、「人間の都合」で自然を壊すのではなく、このように、自然の恵みをいただきながら、自然との共生を図ることへの喜びを久しぶりに体感できたと同時に、放射能に汚染され、日々朽ちていく故郷を思うと、悔しく無念な気持ちでいっぱいになります。

避難以降、一時立入に参加する度、望郷の念とは逆に、早期帰還は難しいと感じ、家族で落ち着ける場所を探すことにしました。当初、故郷に近いいわき市内で物件を探したりしましたが、希望に合う物件を見つけれませんでした。そのため、この四街道周辺で探したところ、隣接する千葉市内で現在生活している物件に巡り会い、今年7月に移り住みました。

原発立地町に暮らしてきた中で、そのリスクについてほとんど知らされないまま原発事故に遭いました。放射能汚染だけではなく、人の心や地域の絆まで壊されてしまつていくようになりません。そうした「フクシマ」の看板は重く苦しく、何を食べても味気なく、癒されることがありませんが、地域の皆さんからの支援に感謝しながら過ごす日々です。

※写真左上枠内は、ムクロジの実を利用して作ったアクセサリー（ストラップ）

おかだ かつひで
岡田 勝秀 さん

(山田)



●避難先●
茨城県つくば市



今から約50年前、当時、私は父と共に果樹園と養鶏業を営んでいました。オートバイで走っている途中、街中で咲き誇る深紅のバラが目に入り、それまで花など無頓着であった17歳の私は、その花に恋をしてしまい、通販で取り寄せた約50本のバラの苗木を植えました。今のようにガーデニング雑誌などもない時代で、苗木は取り寄せたものの、栽培法など詳しい情報が無いままの状態です。苦闘しながら花をつけてくれたこの50本の「恋人」たちが、「双葉ばら園」観光事業に入るきっかけとなりました。果樹園跡地や山を切り拓きながら規模拡大と施設の充実を進めてきました。昭和43年の開園以降、高度成長によるレジャースタイルの変化にあわせ、バーベキューハウス、温泉レストハウス、レストラン、喫茶、カフェテラス、ゴーカートなどのレクリエーション施設などの整備を行いました。

私は、自分もバラ園も常に変化を続けていくものと考えていましたので、時間をみては、各地のバラ園を見に歩いたり、各地のバラ愛好家や専門家の皆さんと交流したりしていました。当園はすでに、そうした皆さんからも一定以上の評価を得られるレベルに達していましたが、ある日訪れた庭園で空間演出に感動を覚えました。次のステップはこれだと感じ、他の花木を取り入れた風景式で立体感のある「バラ庭園」という空間づくりを始めました。そして、被災時には面積約6万平米、約700種・7千株以上のバラが彩る空間になり、専門的世界

的評価を受け、一昨年5月に開催予定だった世界バラ会連合国会議の訪問地の一つに選ばれるほどになっていました。しかし、それも原発事故で一瞬にして奪われてしまいました。

一時立入が始まって以降、参加が続いていますが、回を重ねるごとに雑草が伸び園内の荒廃が進んでいます。今や多くのバラが枯れ、花を目にすることはなくなりまして。避難後しばらくは花を避けたい気持ちでしたが、ある立入で、枯れる寸前だった一鉢のバラに「助けて、一緒に連れて行って」といわれているように感じ、放射能が多く含まれる根の土を洗い流しスクリーニングを受け、現在生活している住宅の庭に植えたところ、この5月、見てといわんばかりに花を咲かせました。

避難後、当園を訪れたという皆さんから多くの励ましやご支援を頂きました。写真愛好家の皆さんが、在りし日の園の様子を撮影した写真展を東京をはじめ各地で開いてくれました。皆さんの思いに感謝の言葉もありません。また今年6月、ドイツで開催された国際会議でも原発事故による当園の惨状が紹介され、多くの人々の目を引きました。



誇らしげに咲いた
バラの花の様子



まつもと せつこ
松本 節子 さん

(長塚二)

ふるさと ●避難先●
絆通信 福島県いわき市

私は町内で美容院（ナミ美容室）を経営していました。自宅と店は別の場所にあり、地震発生当時、私は店におりました。店舗、自宅共に地震で内部はメチャメチャになりましたが、近所に住む子どもたちとその家族共々無事でした。翌日、避難により町を離れ川俣町の避難所に向かいましたが、長男の妻が身重だったこともあり、県内の親類宅を経て、県内の新潟県柏崎市に逃れました。その翌朝、長男たちは関東地方の親類宅に再び移りましたが、私は、昨年12月まで生活し、現在は、いわき市南台仮設住宅で暮らしています。

避難によって太平洋側から日本海側へと移りましたが、冬でもほとんど雪の降らない地域から、雪が当たり前の地域へという環境の変化には戸惑いました。特に、冬場の雪かきや双葉を含めた太平洋側ではほとんどなじみの無い冬の雷など、「雷雨」はわかりませんが、柏崎で初めて「雷雪」を知りました。また同地には、双葉町をはじめ相双地域からの避難者が数多く生活していました。同じ原発立地地域ということもあるためか、地元の皆さんは手厚い支援を差し伸べてくれました。そうした中、古い着物を使ったミニチュア着物づくり講座（写真左上枠内が作品）などに参加するなどして地元の方々や避難者同士で交流を図っていました。

避難後、一時立入に参加しましたが、当初、自宅には行けても店に行けませんでした。しばらくして店に立入したとき、店内にあった着物タンスが開けられ、引き出しが全て立てかけられていました。しまっていた着物は全て盗まれたようでしたがあきらめるしかありません。また、仕事の再開はできませんが、南台に移ってから、同じ仮設住宅内にあるグループホームで散髪のボランティアをしたりしています。

私は長年、標葉せんだん太鼓に参加していました。こちらに移ってから、仮設住宅内で開催されたダルマ市で舞台上に立ちました。バチを握ったのは被災後初めてになりました。双葉に居るときと違って、体育館などに集まって練習するわけにもいかず、かつて演奏したときのビデオを見ながら、枕や座布団などを太鼓代わりに叩いて練習しました。しばらく振りでうまく演奏できず、しばらく不安でしたが、出来栄の評価は別として、皆さんから沢山の拍手を頂いたときには、心底うれしい思いでした。

原発事故まで近所に暮らしていた子どもや孫たちとは離れ離れになってしまいました。事故発生以降、困難を強いられている時間や被災以前のような生活が戻ることが難しいとは思いますが、今は、時折、孫たちが来て賑やかで元気をもらえるような時間を過ごすことが数少ない楽しみです。

セブンイレブン双葉町下条店
(現・セブンイレブン仙台あおば通店)

かさはら しんいち
笠原真一 さん
(下条)



●避難先●
仙台市青葉区



地震で棚に陳列してあった商品は全て床に落ちてしまい、酒などはビンが割れてしまいました。揺れがおさまってから片付けを始めましたが、地震発生からしばらく訪れるお客さんはありませんでした。激しい揺れの後、すっかり静まりかえり、日が暮れだした頃、店の面する国道6号線の渋滞が激しくなり、夕方になって、その渋滞の列からお客さんが訪れるようになりました。地震発生直後から停電になりましたが、非常用電源でレジが動く限り営業を続け、その日は午後8時過ぎに閉店しました。

その後も片付けを続けて、翌朝、避難指示を受け双葉町を離れるため店を閉めようとしたのですが、いくら探しても入口の鍵が見当たりません。おかしい話に聞こえるかもしれませんが、コンビニは24時間・年中無休のため開店以来、鍵を閉めたことがありませんでした。仕方なく、チェーンなどで封鎖しましたが、一時立入で来てみると、入口は破られ、ATMが壊され、店内には、何かを食い散らかして酒盛りをした跡が見られました。

避難後、役場の臨時職員をしながら、店の再開を模索していました。セブンイレブンからは、開業について、県内外を問わずいろいろな物件の情報が流れてきました。南相馬市やいわき市など、故郷に近い物件

の紹介もあり、そうした近隣での開業を考えた時期もありましたが、かつて学生時代を過ごした仙台市で、しかも仙台駅に程近い青葉通り沿いの物件があり、どうせ、再開するのであればと思い切って、現在の場所を決め、今年1月に開店し現在に至っています。田舎と都会の環境の違いに戸惑いもありますが、かつての店で働いていた皆さんや、避難以来、行動を共にした仲間がスタッフとして加わってくれながら、店を運営し生活を続けています。

現在、私は家族と共に仙台市内で生活しています。一時立入する度、被災後そのままになっている町の姿に、復興や帰還は決して簡単ではないと思いますが、希望は持ち続けています。時間はかかっても、いつか戻って店を再開したいと思っています。



〒980-0021

宮城県仙台市青葉区中央2-2-10

仙都會館ビル1F

電話 (022) 714-5613

ぼくの夢・わたしの夢



双葉北小学校6年 ^{いまい} ^{りこ} 莉子さん
(現在:茨城県常陸太田市立太田小学校)

私の将来の夢は、歌手になることです。

3月11日の東日本大震災で何が起ったのかわからないまま突然の友達との別れや新しい小学校へ行くとても不安な時に、テレビから流れてくる歌で勇気づけられたことがありました。

前から歌うことは好きでしたが、歌うことで人に元気を与えて、笑顔になれることを知った時に私は歌手になりたいと思いました。

たくさんの思い出がある双葉町にいつになったら帰れるのかわかりませんが、その時が来たら、思い出のいっぱい詰まったふるさとでみんなを笑顔にできるような歌を歌いたいです。

今月の表紙



今月の表紙は7月27日に開催された「集まれ!ふたばっ子」の全体交流の中で、スパリゾートハワイアンズ、ダンシングチーム「フラガール」のリーダーで双葉町出身のモアナ梨江さん(大森梨江さん)他2人のフラガールよりフラダンスの指導を受けている風景です。

子どもたちは初めはぎこちない動きでしたが、次第に笑顔が見られ、「月の夜は」の音楽に合わせてフラダンスを楽しみました。



わたなべりりか
渡部莉梨歌ちゃん(5歳)、花音ちゃん(9カ月と
お母さんの幸子さん(鴻草)

おがおさんとっしよ

みんなに好かれる人になってほしいです。

▲ 現在、栃木県宇都宮市にお住まいです。

双葉町民の避難状況

(平成25年8月1日現在)

- ・ 福島県内に避難されている方 3,812人
- ・ 福島県外に避難されている方 3,086人

連絡先

○いわき事務所 〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19-4
☎ 0246-84-5200 FAX 0246-84-5212、0246-84-5213
✉ futaba@town.futaba.fukushima.jp

○郡山支所 〒963-8024
福島県郡山市朝日一丁目20番2号
☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5120

○埼玉支所 〒347-0105
埼玉県加須市騎西598-1 旧騎西高校内
☎ 0480-73-6880
FAX 0480-73-6929

✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式ホームページ <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/>
携帯サイト <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/m/>

アドレスが
変わりました